

# 日本楽器の名称

寺田寅彦

青空文庫



樂器の歴史は非常に古いものである。そして、現在ある国民やある民族に固有であるらしく見えるものでも実際はかなり複雑な因果の網目を伝わって遠い外国の樂器と親族関係になっているものらしい。もつともこれは樂器に限らずあらゆる人間の文化の産物について共通な事であつて言語風俗等いづれについても同様であるには相違ないが、原始的な器械的發明としての樂器などはそういう関係を知るに比較的都合のいいものと考えられる。そういう考えから、素<sup>しろうつ</sup>人の道樂半分に少しばかり調べてみた結果をこの昭和三年の初春のにぎわいまでに書いてみる。もちろん玄人<sup>くろうと</sup>筋<sup>すじ</sup>の考証家には一笑の値もないものであろう。

(三味線) 三弦、三線、三皮前、三びせんなどいろいろの名がある。『嬉遊笑覧』きゆうしやうらんや『松屋三絃考』まつのやさんげんこうをみただけでもたぐさんな文献が並べ立ててあるが、いつこうに要領を得難い。永えいいろく  
禄あるいは文禄年間ぶんろくに琉球りゅうきゅうから伝わった蛇皮線じやびせんを日本人の手で作りかえた、それがだんだんポピュラーになったものらしい。それからシナの楽器の阮げんかん咸げんと三味線とが同一だとか、そうでないとかいう議論がある。また、元げんの時代のかの地の三弦一名コフジ、一名コフシ、一名クワフシ、一名コハシなど称するものと関係があるような、またないようなことも書いてある。またこのゲンカンは竹林七賢人の一人の名だとの説もある。

ところがちよつと妙なことには、このゲンカンの文字を今のシ

ナ音で読むとジャンシエンとなるのである。またこのコハシあるいはコフジに相当するものと思われる類似の楽器の類似の名前がヨーロッパ、アジア、アフリカ、南洋のところどころに散在しているのが目につく。たとえばリュート類似の弦楽器として概括されるべきものに、トルコのコプズ、ルーマニアのコプサ、またコプズ、ロシヤ、ハンガリーへのコボズなどがある。それからシベリアの一地方でコムスというのは、ふくれた胴に皮が張つてあるが、弦は二本で五度に合わすとある。振るつてゐるのはホツテントットの用いる三弦の弦楽器にガボウイというのがあり、ザンジバルの胡弓こきゆうにガブスというのがある。また一方では南洋セレベスにある金属弦ただ一本のカボシがある。それからまたアラビア

の四弦の胡弓にシエルシエンクというのがあるのも妙である。

(尺八) シナの洞簫どうしょう、昔の一節切ひとよぎり、尺八、この三つが関

係のある事は確実らしい。足利あしかが時代に禅僧が輸入したような話

があるかと思うと、十四世紀にある親王様が輸入された説もある。

そうかと思うと『源氏物語』や『続世継ぞくよつぎ』などに尺八の名があ

り、さらに上じょうぐうたいし宮太子が尺八を吹かれたという話がある、シナ

には唐あたりの古いところにもとにかく尺八の名がある。しかし

それらの名前に相応する品物がどこまで同一のものであったかは

わからない。長さが一尺八寸あるいは八分だから尺八だというと

いうのはいかにももつともらしいが、これには充分疑う余地があ

る。ある書に尺八を十二作ったが長さがいろいろあると書いてあ

る。しょうそういん正倉院の尺八は一尺一寸以下八種あるそうである。事によるところの尺八は音の高度を示すものかもしれない。

らんりょう蘭領インドの島にシグムバワという笛があり。サモアにシヴァオフエという竹笛がある。

ペルシアのした笛にシャクというのがある。またラツパ、むしろトロンボンの類でシャグバツト（英）サクビユト（仏）サカブケ（西）なども事によると何か縁があるかもしれない。

ヒトヨギリは「ひとよぎ一節切り」に相違ないだろうが、これがヒチリキの子音転換とも見られるのがおもしろい。またポーランドのピスチャルカと称するものは六孔の縦吹きをした笛であるが、この品物自身もその名前とともにヒチリキに類するのが不思議である。

南洋のソロモン群島中のある島に存する竹製の縦笛にププホルと称するのがある。長さ五五・四デシメートルとあるのを換算するとまさに一丈八尺強、恐ろしく長いものである。ただ穴が三つしかないらしい。このププホルと『徒然草』つれづれぐさのいわゆるボロボロとを並べて考えてみるとだれでもちよつと微笑を禁じ難いであろう。

(胡弓)こきゅう シナのフキン。朝鮮のコクン。日本のコキユー。モハメダンのギゲ。古代フランスのギグ。今のドイツのガイゲ。アフリカのゴゲ。いずれも同一属の楽器としてこんな名前が並べ得られる。

これについて思い出すのは古いアツシリアのたてごと豎琴と正倉院に



ある箜篌くごとの類似である。クゴはシナ音クンフーでハーブと縁がある。アラビアの豎琴ジュンク。マライのゲンゴンと称する竹製の豎琴。シャムのコンヴオン。朝鮮のグムンゴまたクムンコなどが連想される。

中央アフリカ北東コンゴのある地方の豎琴にクンデイまたはクンズというのがあつた。ここまで来ると騎虎きこの勢いに乗じて、結局日本のコトをついでにこれと同列に並べてみたくなるのである。豎琴の最古のものはテーベの墓の壁画に描かれたものだそうである。恐ろしく古いものらしい。アッシリアのものはわずかに極東日本にその遠い子孫を残すに過ぎないと思われていたが、同じようなものが東トルキスタンで発見されたそうである（紀元一世紀ごろ

のもの)。これははなはだ意味の深い事実である。

昔はあらゆる弦楽器がハープという一つの名で呼ばれたらしいという説がある。そういう事を頭においてだんだんに上記のいろいろの弦楽器の名前をローマ字書きに直して平面的あるいは立体的に並列させてみるとこれらはほとんど連続的な一つの系列を作る。これはたぶん偶然であるかもしれない。しかし万一そうでないかもしれない。かりに偶然でないとしたところでそれはこれらの名が擬音的であるために生ずる自然の一致であるか、あるいは伝統因果的關係から来るのか、たぶん両方であるか、これはなかなか容易にはわかりにくい問題であろう。

笛の名でもニューギニアのムベイ。ニュージランドのプー。

マレイのプアン。ミンダナオのプアラ。マルケサスのプイフ。ピルマのプルエ。ピルウエ。スラヴのフバ。フィンランドのフィル。ラテンのピパ。などみんな擬音らしくもありまた関係があるらしくもある。オボーなどもこれと従いとこ兄弟である。

おもしろい事には全然ちがった楽器の名前が同じような音から成り立っている例のかなり多いことである。たとえば笛のピパに対して弦楽器のピパすなわちビワがあり、弦楽器のタンブールに対して太鼓のタンブールがあるような類である。

以上はただまるで夢のような話で結局これだけからはなんの結論も出て来ないのであるが、ともかくもこれだけの片かなの名前を並べて、のどかにながめていると一種不思議な気持ちになっ

て来る。今まで自分たちとは全くなんのゆかりもないように思われていた遠い国々の民族が何かしら、全くのあかの他人でないような気がして来る。古い言葉の四海兄弟という文字の意味が急に新しい光を浴びて現われて来るのを感じる。

赤道へ行っても実際は地球儀にかいてあるような線はどこにも存在しない。地図の上ではちがった絵の具でくつきりと塗り分けられた二つの国の国境へ行つて見ても、杭くわいが一本立つてくるくらいのものである。人間のこしらえた境界線は大概その程度のものである。人間の歴史のある時期に地球上のある地点に発生した文化の産物は時間の経過とともに人為的のあらゆる障壁を無視して四方に拡散するのは当然である。永代橋えいたいばしから一樽たるの酒をこぼせば、

その中の分子の少なくもある部分はいつかは、世界じゅうの海のいかなる果てまでも届くであろうように、それと同じように、楽器でも言語でも、なんでも、不断に「ディフュージョン拡散」を続けて来たものであるかと思われる。ただ溶媒中における溶質分子の拡散と比べてはなはだしく幾重にも複雑な方則に支配されるであろうし、拡散する「物」のスタビリティ安定度が少ないために、事がらがいつそう込み入つて来るのであろう。

以上はひっきょう畢竟一つの空想に過ぎない。ただ、近来わが国固有文化に関する研究が急激に盛んになつて来たのに気がついて、愉快に感じると同時に自分も知らず知らずそのすうせい趨勢に刺激されて、がらついで柄にない方面にまで空想の翼を延ばしたくなつたようなわけ

である。杜撰ずざんな考証に対してもし識者の教えを受ける縁ともならば大幸である。

（お断わり。楽器の名のかな書きに直し方に不穏当なのがあるかもしれない。どうかそのつもりで読んでもらいたい。）

（昭和三年一月、大阪朝日新聞）

# 青空文庫情報

底本：「寺田寅彦隨筆集 第二卷」小宮豊隆編、岩波文庫、岩波書店

1947（昭和22）年9月10日第1刷発行

1964（昭和39）年1月16日第22刷改版発行

1997（平成9）年5月6日第70刷発行

入力：(株)モモ

校正：かとうかおり

2003年6月25日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。



# 日本楽器の名称

寺田寅彦

2020年 7月13日 初版

## 奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>